

# さとひがし

大津市立仰木の里東小学校 学校だより 6月号



☆自ら学び、心豊かで

たくましい子どもの育成

「み」 自ら学ぶ子

「や」 やさしく思いやる子

「げ」 元気な子

令和4年6月2日



## 『地域ぐるみで子どもを育てる』

—昨日、「地域つながり委員会」の子どもたちとスクール農園ボランティアの皆さんが、農園で収穫したタマネギを販売しました。予想以上に、たくさんの地域の方々や保護者の皆さんが買いに来てくださいました。誠にありがとうございました。

—昨年度よりスタートした農園ボランティア活動には、現在9名の方が参加されています。毎週日曜日に作業を続けておられ、とてもきれいな農園になっています。地域のシンボル「食べられるダリヤ」や子どもたちの学習に必要な野菜等を、子どもたちと一緒に育ててくださっています。何より農園にとって一番大事な「土づくり」を丁寧に進めていただき、花も野菜も大変元気に育っており、子どもたちも大喜びです。

今年度から、学校でも委員会の中に『地域つながり委員会』を発足させ、地域の皆さんと一緒に活動を進めています。委員会に所属している子どもたちからは、「地域の皆さんががんばっているの、感謝の気持ちを伝えたい。」「地域の皆さんと一緒にがんばりたい」という声がたくさん聞かれています。また、ボランティアの皆さんも、「子どもたちから感謝の気持ちを伝えてもらって、ますますやる気が出てきました」と話してくださっています。学校といたしましても、地域の方々と一緒に活動する意義を実感しており、今後の展開がとても楽しみにしています。活動の様子は、学校だより等で継続的にお知らせしていきます。



## ESY (エディブル・スクールヤード)

「エディブル・スクールヤード(食育菜園)」とは、子どもたちが菜園(スクール農園)やキッチンでの授業の中で、健康や環境コミュニティを大切にすること、それが自分たちの持続可能で豊かな暮らしにつながることを体感する、食を通じた持続可能な生き方のための教育プログラムです。県内の多くの公立小中学校では、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の理念や「ESY」の取組に通じるような、野菜や米などの栽培活動に長年にわたり取り組んできており、児童生徒が、自然・環境・いのち・地域・つながりの大切さなどを学んでいます。【滋賀県教育委員会ホームページより抜粋】

仰木の里学区においても、龍谷大学と連携し、この取組が進められています。仰木の里東小学校でも、昨年度はエディブル・フラワー(ダリヤ)を栽培したり、栽培を希望される方にダリヤの球根や種を配布したりするなど、充実した活動を展開してきました。今年度も、地域の方々の協力を得ながら、「子どもたちが主体(中心)となった活動」をさらに積極的に推進してまいります。

## 学校園運営協議会スタート

令和4年度の学校園運営協議会もスタートしました。

今年度で、3年目となります。「地域の子どもたちを

地域で健やかに育てる」ため、地域の教育力の醸成をめざし、2つの提言(①温もりのあるあいさつ活動の推進・充実 ②ボランティア活動の推進・充実)を掲げ、地域と学校園とが連携し、協働的に活動を行っています。仰木の里学区の自治連合会、青少年育成学区民会議、民生委員児童委員協議会、「人権・生涯」学習推進協議会、社会福祉協議会の役員の皆様やおうみ通学路交通アドバイザー様、PTA会長様等に参画いただいております。

幼稚園や小学校の教育課程の中では、実際に地域へ出かけたり、地域の方々と直接関わったりする「実体験」を大切にしています。それらの体験をとおして、子どもたちが自分たちの住んでいる街(地域)に「愛着」や「誇り」を持つことができるようにしていきたいと考えています。様々な立場の人が、協力して子どもたちの育成に関わっていくことで、子どもたちの学校園生活はより充実したものとなると思います。運営協議会では、これらの活動が、「魅力ある街づくり」につながっていくことを期待しています。